

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成22年6月24日(2010.6.24)

【公開番号】特開2008-278429(P2008-278429A)

【公開日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-045

【出願番号】特願2007-122798(P2007-122798)

【国際特許分類】

H 0 4 M 1/64 (2006.01)

H 0 4 W 76/02 (2009.01)

【F I】

H 0 4 M 1/64 1 0 2 Z

H 0 4 B 7/26 1 0 9 L

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

留守番電話機能を有する通信装置において、

前記留守番電話機能を設定した状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたか否か、又は前記留守番電話機能が解除された状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたか否かを判定する手段と、

前記着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行わないように制御し、前記着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行うように制御する手段とを有し、

前記着信が終了した後は、前記留守番電話機能を当該着信があった前の状態とすることを特徴とする通信装置。

【請求項 2】

複数の子機を備え、

前記着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われた場合、前記複数の子機のいずれかがその着信に応答可能であることを特徴とする請求項 1 記載の通信装置。

【請求項 3】

前記留守番電話機能を解除する操作又は設定する操作は、前記通信装置又は前記複数の子機のいずれかにより行われる操作であることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の通信装置。

【請求項 4】

留守番電話機能を有する通信装置の制御方法であって、

判定する手段が、前記留守番電話機能を設定した状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたか否か、又は前記留守番電話機能が解除された状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたか否かを判定する工程と、

制御する手段が、前記着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたと判定し

た場合、前記留守番電話機能による自動応答を行わないように制御し、前記着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行うように制御する工程とを有し、

前記着信が終了した後は、前記留守番電話機能を当該着信があった前の状態とすることを特徴とする通信装置の制御方法。

【請求項 5】

請求項 4 記載の通信装置の制御方法をコンピュータに実行させるためのプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、上記課題を解決するためになされたもので、特定の着信に対する留守番電話機能を解除又は設定可能とすることを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明は、留守番電話機能を有する通信装置において、前記留守番電話機能を設定した状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたか否か、又は前記留守番電話機能が解除された状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたか否かを判定する手段と、前記着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行わないように制御し、前記着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行うように制御する手段とを有し、前記着信が終了した後は、前記留守番電話機能を当該着信があった前の状態とすることを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、本発明は、留守番電話機能を有する通信装置の制御方法であって、判定する手段が、前記留守番電話機能を設定した状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたか否か、又は前記留守番電話機能が解除された状態で着信があった場合に、当該着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたか否かを判定する工程と、制御する手段が、前記着信中に前記留守番電話機能を解除する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行わないように制御し、前記着信中に前記留守番電話機能を設定する操作が行われたと判定した場合、前記留守番電話機能による自動応答を行うように制御する工程とを有し、前記着信が終了した後は、前記留守番電話機能を当該着信があった前の状態とすることを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明によれば、特定の着信に対する留守番電話機能を解除又は設定可能とすることが
できる。